



## 本当においしいご飯

太田市立蕪川西小学校 4年

澤田 李佳

「ねえねえお母さん。」

と会話が始まる。家族で会話をするのは、だいたいがご飯の時間だ。会話の中では、

「これおいしいね。」

「またつくって。」

といろいろなことを話す。ご飯中、一言も話さない人は家族の中でだれ一人いない。反対に、一言もいわないことができないのだ。それに家族の会話はどんどんふくらむ。こんな話やあんな話、ご飯のときはほんとうにたくさん話しをする。また、

「お母さんあのね…。」

「ねえお母さん。」

「もう。二人でいっぺんに話さないで。」

とおこられることまである。まるで会話のとり合いのようだ。

ところで、ふくらむのは会話だけではない。そう笑顔だ。ひょうじょうは、会話だけでは伝わらないことを伝える役目がある。なので笑顔は、会話と同じくらい、どんどんどんどんふくらんでいる。

ところが、わたしはご飯を食べるのがおそい。ご飯をたべ終わるのは、ビリのときがほとんどで、一番に食べ終わることは、めったにない。なので小学校に入学する前は

「もう、こんなにおそいと小学校でたいへんだよ。」

とか、

「もう三十分以上たっているのになんにもすすんでないじゃん。」

ということをしょっちゅう、いや毎日三回いわれていた。それに小学生になっても、

「小学校でもそんなにおそいの。だいじょうぶなの。」

とおこられるときがある。今日も言われた。でもそれにはちゃんと理由がある。わたしは会話と笑顔がいっぱいのご飯が大好きだ。だからその大好きなご飯の時間を大切にしたいとおそくたべているのだ。

もしも会話と笑顔がないご飯だったら、どんなにおいしくてもわたしは食べたくない。なぜかというと、会話と笑顔がないご飯はおいしく感じないんじゃないかと思ったからだ。わたしは、会話と笑顔は、ご飯から生まれているのかなと思う。そして会話と笑顔いっぱいのご飯をこれからも食べていきたい。